



Cisco MeetingPlace の管理と保守

この章は、次の項で構成されています。

- [ポート管理について \(P.5-2\)](#)
- [キャパシティの管理について \(P.5-12\)](#)
- [ディスク領域の使用状況の最適化について \(P.5-21\)](#)
- [ユーザアクセスの管理について \(P.5-23\)](#)
- [通知の管理について \(P.5-24\)](#)
- [System Manager Agents について \(P.5-27\)](#)
- [情報のバックアップについて \(P.5-29\)](#)
- [停止の計画について \(P.5-32\)](#)
- [Cisco MeetingPlace サーバの保守について \(P.5-38\)](#)
- [ユーザデータベースの保守について \(P.5-38\)](#)
- [設定レコードの保守 \(P.5-44\)](#)
- [Cisco MeetingPlace ライセンス キーのロードについて \(P.5-44\)](#)

ポート管理について

ポートの種類を指定し、ポート スケジューリングを管理することによって、リソースの使用状況を最適化できます。次の項で、ポート管理について説明します。

ポートの種類指定

Cisco MeetingPlace と電話網の間の接続を「ポート」と言います。Cisco MeetingPlace を電話網に接続するポートは、「アクセス」ポートに分類されます。アクセス ポートは、Cisco MeetingPlace で可能な同時接続の合計数です。ポートはすべて、自動的にアクセス ポートに指定されます。

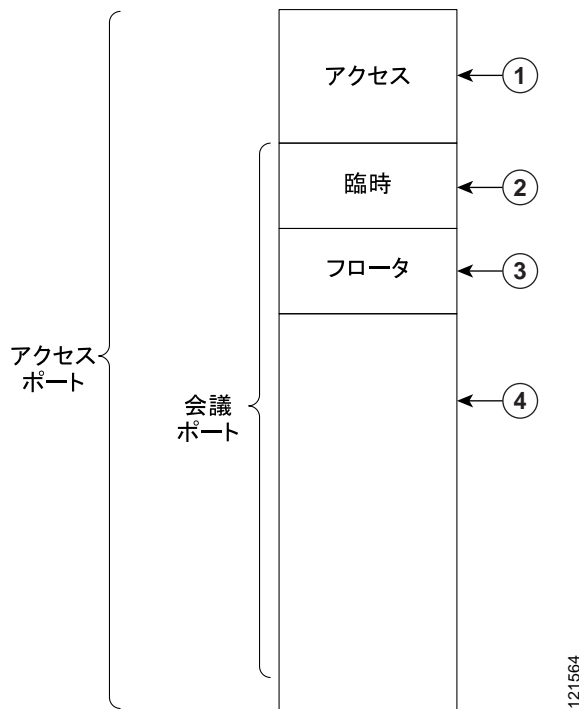
アクセス ポートのサブセットが、「会議」ポートとして事前設定されています。アクセス ポートと会議ポートは同じです。会議ポートとして設定されていないアクセス ポートは、会議のスケジュールおよび記録された会議の再生に使用されます。

Cisco IPVC MCU にはビデオ ポートが物理的に存在しますが、これは Cisco MeetingPlace で事前にスケジュールできないリソースです。アクセス ポートおよび会議ポートと異なり、ビデオ ポートは個別にライセンスされません。Cisco MeetingPlace Video のライセンスが有効になると、すべてのビデオ ポートが有効になります。

図 5-1 は、次のことを示しています。

- アクセス ポートはすべてが会議ポートとして事前設定されているわけではありません。取得している会議ポート ライセンスの数（発注書に記載）が、システムの会議ポートの合計数です。
- ポートの種類分布は、Cisco MeetingPlace システムにおけるポートの分布を示しています。
- コール転送を処理するために、いくつかの会議ポートを予約できます。これが臨時ポートです。臨時ポートは、会議中に会議の参加者が連絡先または出席者に支援を求めたり、システム管理者が会議にダイヤルしたりできるように、システムが予約しているポートです。システムの臨時ポートの数は、Number of Contingency Ports フィールド (Configure タブの Server Configuration トピック) に入力した値によって決まります。
- 残りの会議ポートは、フロータ ポートと言い、予期しないポートの需要に対応します。フロータ ポートは会議間を自由に移動でき、定員に達している会議に予定外の参加者があったときに、事前にスケジュールしたポートが利用できない場合、予備として使用できます。たとえば、すでに定員に達している会議に新しいユーザが参加しようとする、サーバはポートを追加して会議を再スケジュールしようとします。すべてのポートが他の会議用に予約されている場合は、サーバは、その新しいユーザが会議に参加できるように、フロータ ポートを探します。フロータ ポートの数は、Number of Floating Ports フィールド (Configure タブの Server Configuration トピック) に入力した値によって決まります。

図 5-1 ポートの種類の分布



1	スケジュールおよび記録された会議の再生用に予約されているアクセスポート	3	予約せぬ会議参加者を処理するために予約されているフロータポート
2	出席者が連絡するコール転送の処理用に予約されている臨時ポート	4	使用中または会議に予約されているポート

1～2の会議ポートを臨時ポートに指定し、会議ポートの合計数の15%をフロータポートに指定することをお勧めします。

予約不要の会議のフロータポイントに関する推奨事項については、[P.2-55](#)の「[予約不要の会議について](#)」を参照してください。

ビデオポートは、スケジュール時には会議ポートと同じように動作します。ビデオフロータポートとビデオオーバーブッキングポートの設定は別にあります。ビデオ臨時ポートの設定はありません。会議ポートと同様に、ビデオフロータポートとビデオオーバーブッキングポートは、[Configure](#) タブの [Server Configuration](#) トピックで指定します。

オーバーブッキングポートの指定

オーバーブッキングポートは、音声会議とテレビ会議での需要に合わせて個別に指定します。[Overbook Ports](#) フィールドと [Video Overbook Ports](#) フィールド（どちらも [Configure](#) タブの [Server Configuration](#) トピックにあります）に入力した値によって、Cisco MeetingPlace は実際に利用できるポートよりも多くのポートをスケジュールできます。たとえば96の会議ポートがあり、この96すべてが会議用に予約されているとします。システム管理者が [Overbook](#) を2に設定すると、ユーザは、さらに2人の会議を同時にスケジュールできます。

オーバーブッキングは、参加がスケジュールされたすべてのユーザが参加するわけではなく、通常、利用可能な未使用ポートが残ることを前提にしています。すべてのポートがスケジュールされ、オーバーブッキングされたユーザも含めてすべてのユーザが会議に参加するというまれな状況が

発生した場合は、いずれかの会議に最後にコールしたユーザが参加できなくなります。この会議が重要な会議である場合は、システム管理者または出席者が、オーバーブッキングされた参加者に、後で再スケジュールするように依頼できます。

予約不要の会議のオーバーブッキング ポートに関する推奨事項については、P.2-55 の「予約不要の会議について」を参照してください。この値の計算の詳細については、『*Administrator's Guide for Cisco MeetingPlace Video Integration Release 5.3*』を参照してください。

パフォーマンスを向上させるポートおよびポート グループの設定

Cisco MeetingPlace には、ポート設定を制御して、システムへのユーザのアクセスを最大にするためのパラメータがいくつかあります。ほとんどの場合、デフォルトのパラメータ (Cisco Network Consulting Engineer (NCE) がインストール時に設定したパラメータ) で十分です。ただし、ユーザがシステムに関心を持つようになると、パフォーマンスを向上させるようにシステム管理者がポート設定を変更する必要があることがあります。

Cisco MeetingPlace データベースには、個別のポートおよびポート グループが含まれます。ポートをグループにまとめると、複数のポートを同時に設定できます。

個別のポートの設定

ポート構成情報には、デフォルト ポート アクセス タイプが含まれます。Cisco MeetingPlace が着信番号情報 (DID/DNIS または DDI) を受信すると、DID アクセス計画によって、そのコールに割り当てられるポート アクセス タイプが決まります。

DID アクセスでは、ユーザがダイヤルした番号によって、特定のディジットのセットが Cisco MeetingPlace サーバに渡されます。各ディジットセットは、Cisco MeetingPlace サービス タイプ (スケジュールリング、プロファイル アクセス、記録された会議へのアクセス、会議への参加) のいずれかに割り当てられています。コールは、任意のポートから着信できるため、ポートは動的に割り当てられます。たとえば、すべてのユーザが記録された会議へのアクセスに対応する番号をコールした場合、すべてのスケジュールされていないポートは記録された会議に割り当てられ、新しい会議はスケジュールできません。

直接アクセスでは、ポートは特定のサービス タイプに割り当てられます。たとえば、ポート 1～3 はスケジュールリングに、4～5 は記録された会議に、6～12 は会議に割り当てられます。ユーザがダイヤルした番号によって、アクセスするポートが決まり、受信するサービスが決まります。

Cisco MeetingPlace が着信番号情報を受信しなかった場合、コールに割り当てられるデフォルトのポート アクセス タイプは、Ports トピック (Configure タブ) でコールを処理するポートに割り当てられたタイプになります。システムが着信番号情報を受信しない場合は、システム管理者が Cisco MeetingPlace と電話網の接続をマップする必要があります。その後、Cisco MeetingPlace に接続する各回線または回線グループに割り当てるアクセス タイプを決定するか、またはすべてのポートを組み合わせたアクセスで全体的に使用します。

ユーザが特定のサービスにアクセスできない場合、システム管理者は Ports トピックを使用して、各 Cisco MeetingPlace サーバに割り当てられているポートの数を再設定できます。

次の点に留意してください。

- 個別のポートをポート グループに割り当てる場合、すでにポート グループに設定されているデータを再入力する必要はありません。
- アウトダイヤルを許可または禁止するように、Cisco MeetingPlace ポートを設定できます。テレフォニー プロバイダーが設定した方法と同じ方法で、Cisco MeetingPlace でトランクが設定されていることを確認します (発信コールを許可するか、禁止するか)。Cisco MeetingPlace は、システム全体、グループごと、またはユーザごとに、特定の番号およびダイヤル パターンをブ

ロックできます。コールブロッキングは、Cisco MeetingPlace の内部テーブルで制御されます。このテーブルの設定については、『[Guide to Cisco Conferencing Documentation and Support](#)』の「Obtaining Technical Assistance」を参照してください。

- スケジュールされた会議のポート数は制限できますが、予約不要の会議用のポート数は制限できません。

ポートグループの設定

複数のポートが同一の設定を使用することがあるため、Cisco MeetingPlace データベースは、複数のポートの設定を同時に定義するポートグループを使用します。ポートグループは、Configure タブの Port Groups トピックを選択して定義します。

ポートグループ定義には、個別のポートの情報の一部が含まれます。ポートがポートグループのメンバーの場合、この情報を再び入力する必要はありません（グループ情報は、個別のポート情報よりも優先されます）。

ポートアクセスタイプなど、ポートグループを定義するために入力した設定情報は、個別のポート設定情報または DID アクセス計画がない場合に、グループに割り当てられたすべてのポートにデフォルトで適用されます。表 5-1 でポートグループについて説明します。

表 5-1 ポートグループの設定

属性	説明	選択肢および推奨値
ID number	このポートグループを識別する 0 ~ 31 の番号。この番号は事前定義されます。	Cisco MeetingPlace に着信する各回線をポートグループに割り当てます。ポートグループ ID 番号は任意です。
Active	このポートグループ定義を使用するかどうか。ポートグループを定義して、後で使用することができます。	Yes または No 通常、ポートグループは常にアクティブです。サービス中にポートグループを非アクティブにできます。
Provider	サービスプロバイダーを識別する省略形。	英字、数字、またはその両方。
Circuit ID	回線を識別する番号。	回線プロバイダーが割り当てます。
Card type	トランクが、デジタル T1、IP、または未割り当てのどれか。	T1、IP、または None（未割り当て）。
Signaling protocol	このトランクが使用するシグナリングタイプ。	Loop start、ground start、E&M wink start、immediate start、DID/DDI、clear channel、IP、protocol table、any E1 のいずれか。
Protocol table	使用するシグナリングのタイプの設定情報が含まれます。	すべての T1 PRI システムは、プロトコルテーブル 2 で ATT PRI プロトコルのデフォルト設定を、プロトコル 3 で Nortel PRI を、テーブル 4 で Bell PRI を使用するように設定された状態で工場から出荷されます。
# of DID digits expected	PBX またはネットワークが送信するディジットの数を示します。	任意（0 または 2 ~ 6 の数値。1 は無効）。
Mtg.ID for direct mtg. access or Default digits for system	DID/DDI ディジットが 0 で、デフォルトアクセスタイプが「meeting」のときに、このポートへの発信者が参加する会議を示します。	発信者を参加させる会議の会議 ID または DID/DDI 番号。

表 5-1 ポートグループの設定

属性	説明	選択肢および推奨値
Default access type	着信番号情報がない場合に、グループのすべてのポートに適用される Cisco MeetingPlace アクセス タイプ。	DID Meeting、Profile、または Combined。 このポートでユーザに与えるアクセス レベルに応じて決定します。
Language	プロンプトを再生する言語。	English (USA)、English (UK)、Japanese、French-Canadian、French (France)、German、Portuguese (Brazil)、Spanish (Americas)、または No Language。 <i>No Language</i> の場合は、Cisco MeetingPlace Audio Server システムにダイヤルしたときに、言語プロンプトが再生されます。
Human assistance?	会議の参加者が支援を必要としたときに、Cisco MeetingPlace は別のポートを使用して、その参加者を（コール転送で）連絡先または出席者に接続します。このフィールドの値によって、会議中にこのグループのポートをコール転送に使用できるかどうかが決まります。	Yes または No ユーザを支援できる担当者がこのポートグループで接続できるようにする場合は、Yes を選択します。
Flash transfer?	フック フラッシュを使用して、このポートでコール転送を開始できるかどうか。	Yes または No テレフォニー ネットワーク プロバイダーに問い合わせてください。
Outdial?	このポートを発信コールに使用できるかどうか。	Yes または No ほとんどのアプリケーションでは、ポートがアウトダイヤルを処理できるように設定する必要があります。

ガード タイムによるポート スケジューリングの管理

ガード タイムを使用すると、会議が他の会議と重なったり、2 つの会議が同じ会議 ID で連続してスケジュールされないように管理できます。

ガード タイムは、スケジュールされた会議のレコードの一部になります。たとえば、システムの開始ガード タイムと終了ガード タイムのパラメータを 0 分に設定して会議をスケジュールしてから、システムの開始ガード タイムと終了ガード タイムを 60 分に変更した場合、新しいガード タイム設定は会議に反映されません。この会議で現在のシステムの開始ガード タイムと終了ガード タイムを採用するには、会議を再スケジュールする必要があります。連続した予約不要の会議は、ガード タイムにかかわらず許可されます。事実上、予約不要の会議のガード タイムはゼロです。

Cisco MeetingPlace は、ガード タイムを使用して、表 5-2 に示す 3 つのリソースを管理します。

表 5-2 ガードタイムで管理されるリソース

リソース	説明
会議ポート	すでに説明したとおり、Cisco MeetingPlace 会議サーバでユーザが利用できるポート数は限られています。ここで説明するパラメータによって、スケジュールされた会議の前、開催中、または後にポートが予約されている時間（つまり、他のユーザがいつポートを使用できるようになるか）が決まります。
会議 ID	各会議には ID 番号があり、ユーザはこの ID を使用して、自分が参加する会議を識別します。どの会議に発信者を参加させるかをシステムが認識できるように、一定の時間、会議 ID は一意である必要があります。 会議のガードタイムのフィールドによって、会議の前後に会議 ID が保護される時間が決まります。この保護によって、別のユーザが別の会議を同時に同じ会議 ID でスケジュールすることを防止できます。会議 ID ガードタイムは、Cisco MeetingPlace が会議を認識できないというメッセージの代わりに、会議がまだ始まっていない、または終了したというメッセージを発信者が聞くことができる時間の長さも定義します。
音声記憶域	ガードタイムは、会議を記録する領域を予約します（主催者が会議をスケジュールするときに、会議の記録を選択した場合）。

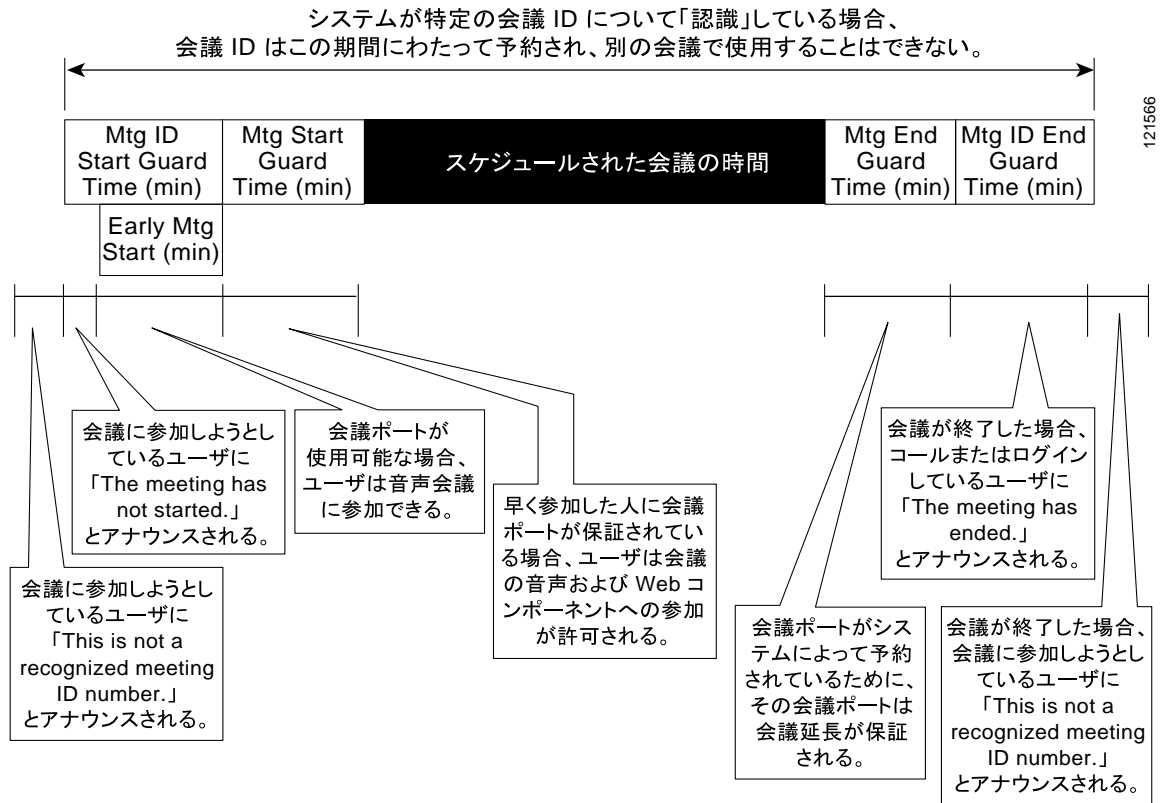


注意

予約不要の会議は予約不要会議 ID としてプロフィール番号を使用するため、Reservationless Meetings 機能を使用する場合は、プロフィール番号を既存の会議 ID と同じにはできません。

図 5-2 で、ガードタイム設定がユーザに与える影響を示します。

図 5-2 ガードタイムがユーザに与える影響



ガードタイムのパラメータの設定

これらの「消費可能な」リソースのパラメータを指定するには、次の手順に従います。

- ステップ 1 MeetingTime の Configure タブで、**Scheduling Parameters** ビューを選択します。
- ステップ 2 表 5-3 で示すように、パラメータの値を設定します。

表 5-3 ガードタイムのパラメータ

パラメータ	説明
Mtg. start guard time (min)	<p>要求された会議の開始時刻の何分前から会議用にポートを予約するかを示す値。Cisco MeetingPlace は、要求された開始時刻に、この事前の時間を自動的に付加します。この時間によって、会議の音声コンポーネントに早く参加したユーザ用にポートが確保されます。</p> <p>このパラメータを 0 分に設定し、Mtg.ID Start Guard Time を使用すると、Cisco MeetingPlace は会議を認識し、会議に入席しようとしたユーザに「The meeting has not started.」というメッセージを再生します。</p>
Mtg. end guard time (min)	<p>スケジュールされた会議の終了時刻の何分後までポートまたは「ゼロポート」会議を予約するかを示す値。Cisco MeetingPlace は、会議の予約された終了時刻にこの時間を自動的に付加します。この時間によって、音声会議がスケジュールされた終了時刻を超えた場合でも、ポートが確保されます。</p> <p>このパラメータを 0 分に設定すると、連続した会議をスケジュールできます。会議が長くなる傾向がある場合や、システムがあまり混雑しない場合は、このパラメータを長い時間に設定します。ガードタイムが経過した後、利用できるポートがない場合は、その会議の音声コンポーネントの延長ができません。</p> <p>ゼロ以外のガードタイムを設定すると会議の前後にポートが確保されますが、ほとんどのユーザは、単純に会議の「パディング」をスケジュールします。たとえば、1 時間の会議を開催する場合、発信者が会議に入席し、ロールコールと議題を聞き、互いに挨拶できるように、ユーザは会議を 70 分にスケジュールします。この場合、複雑なガードタイムの管理は不要になります。</p>
Mtg.ID start guard time (min)	<p>関連付けられている会議 ID または DID/DDI 番号を会議開始の何分前から予約するかを示す値。このパラメータと Mtg.ID end guard time の両方により、会議 ID が再利用できるようになるタイミングが制御されます。これによって、2 つの会議が同時に同じ ID を持つことがなくなり、発信者が誤って間違った会議に入席することがなくなります。</p> <p>ユーザが会議 ID 開始ガードタイムの開始前に会議に入席しようとする、「This is not a recognized meeting ID number.」というメッセージが再生されます。音声会議の発信者の場合は、音声プロンプトとして再生されます。Web 会議にログインしているユーザの場合は、同じメッセージが画面に表示されます。</p> <p>Mtg. start guard time の開始後に発信者が音声会議に入席しようとする、「The meeting has not started.」というメッセージが再生されます。このパラメータの推奨値は 15 分です。</p>
Mtg.ID end guard time (min)	<p>関連付けられている会議 ID または DID/DDI 番号を会議開始の何分後まで予約するかを示す値。この時間内に発信者が音声会議にコールすると、「The meeting has ended.」というメッセージが再生されます。Web 会議にログインしているユーザの場合は、同じメッセージが画面に表示されます。この時間が経過すると、「This is not a recognized meeting ID number.」というメッセージが再生または表示されます。このパラメータの推奨値は 15 分です。</p>

次の点に留意してください。

- ゼロポート会議に 2 人のユーザが参加し、ログアウトを忘れた場合、会議は自動的に最大 24 時間延長されます。会議 ID の競合が発生すると、会議の有効期限が切れます。
- 会議ガードタイムと会議 ID ガードタイムの分数は、会議の開始時刻および終了時刻に付加されます。たとえば、開始および終了のガードタイムがどちらも 10 分で、会議自体が 1 時間でスケジュールされており、Start Meeting ID guard time および End Meeting ID guard time がそれぞれ 10 分の場合、この会議 ID で予約される合計時間は 1 時間 40 分になります。

ランタイムによるポート スケジューリングの管理

ランタイムは、スケジュールされた開始時刻より前に参加者が会議にコールできる時刻、会議を延長できる時間、およびポートを解放する時刻を決定します。

ランタイム パラメータは、各会議の開始時に有効になります。新しい会議が始まるたびに、システムは現在のランタイム設定を調べ、会議の管理方法を判別します。

表 5-4 で、ランタイムによるポート スケジューリングの管理に使用するパラメータを説明します。

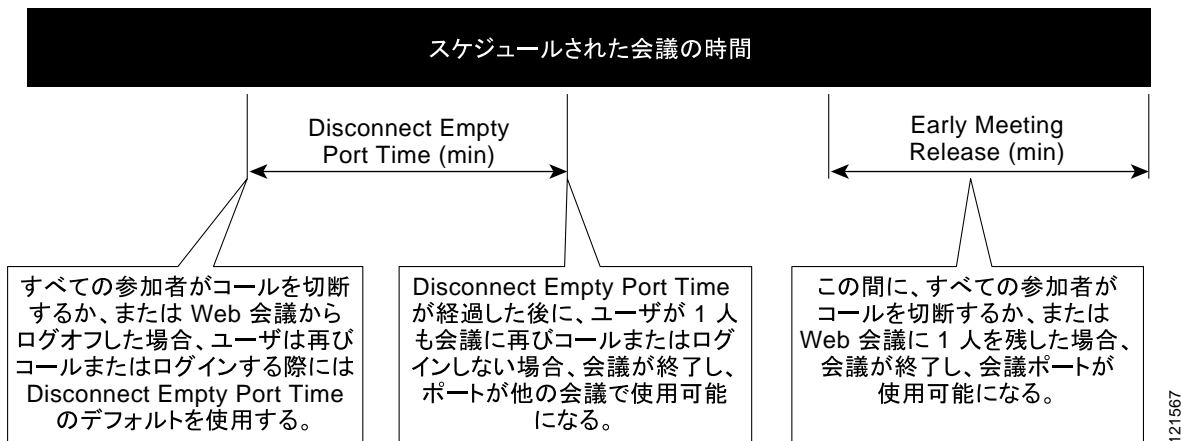
表 5-4 ランタイムによるポート スケジューリングの管理

パラメータ	説明
End of mtg. warning (min)	会議の終了に対する最初の警告を何分前にユーザに通知するかを示す値（推奨時間は 10 分前）。会議の終了 2 分前に、2 回目の警告があります。
Extend meeting (min)	スケジュールされた終了時刻を超えて会議が継続し、ポートが利用可能な場合に、会議を延長する時間（0 ～ 60 分）。発信者は、会議の終了時刻を通知する参加者宛ての警告を受信します。ポートが他の会議に予約されていない場合は、システムが会議時間を延長できます。このパラメータの推奨値は 15 分です。 会議終了のアナウンスと、会議延長のアナウンスは、会議ごとに設定できます。ただし、各パラメータの時間の設定は、システム全体に適用されます。 ゼロポート会議では、これらの警告はサポートされません。
Early mtg. start (min)	会議開始の何分前から参加者が会議に入席できるかを示す値。この時間は、会議の開始ガードタイムに付加されますが、会議 ID の開始ガードタイムより小さくする必要があります。このパラメータの推奨値は 15 分です。 たとえば、会議の開始時刻が 9:00 で、Mtg. start guard time が 15 分で、Early mtg. start（ポートが利用可能な時間）が 15 分に設定されている場合、発信者は 8:30 に会議に入席できます。
Disconnect empty port (min)	すべてのユーザが電話を切るか、1 人のユーザが Web 会議に残った後、何分後までポートを維持するかを示す値。このパラメータは、長い会議で参加者が休憩を取り、再入席するためのものです。 また、このパラメータは、スケジュールされた会議開始時刻の後、会議の参加者が現れなかった場合に、ポートを維持する時間も決定します。
Early meeting release (min)	スケジュールされた会議の終了時刻の前に、その会議でポートが使用されていない場合、そのスケジュールされた終了時刻の何分前にポートを解放するかを示す値。

終了時刻の前に会議を解放する機能は、Web 会議に 1 人の参加者だけが残っている場合、ゼロポート会議で有効です。

図 5-3 で、解放時間のパラメータの相互作用を示します。

図 5-3 解放時間のパラメータの相互作用



即時会議のパラメータの設定

即時会議（ユーザがただちに開始する会議）もポートを使用します。即時会議は、開始前会議ガードタイムを使用しません。ただし、進行中にリソースを使用し、Mtg End Guard Time、Mtg End ID guard time、Disconnect Empty Port、Early Mtg Release、Extend Meeting の各パラメータ、および会議を記録する予約領域のパラメータを使用します。

システム管理者がデフォルトのポートと会議の所要時間を設定し、会議のスケジュール担当者がこのデフォルトを変更できます。

ステップ 1 MeetingTime の Configure タブで、**Scheduling Parameters** ビュー (Company Specific Information の下) を選択します。

ステップ 2 Immediate Meetings 属性までスクロールして、次の属性を設定します。

- **# of Ports to Schedule** : 発信者が即時会議を要求したときに、Cisco MeetingPlace が提供する会議ポートのデフォルト数。このポートは、即時会議で一般的に使用するように予約されているものではありません。発信者は、ポートが利用可能な場合にのみ、即時会議をスケジュールできます。
- **Length of Meeting (Min)** : 発信者が即時会議を要求したときに、システムが提供するデフォルトの会議の所要時間。

ステップ 3 **Save Changes** をクリックします。

次の点に留意してください。

- 連続した会議をスケジュールできない場合は、会議の開始および終了のガードタイムが 0（ゼロ）であるかどうかを確認します。連続した会議をスケジュールするには、これらの値を 0 にする必要があります。
- ユーザのコールまたはログインが早すぎるときに、「That is not a valid meeting ID」ではなく「The meeting has not yet started」というメッセージが再生または表示されるようにするには、会議 ID の開始および終了のガードタイムを大きな値（60 分など）に設定します。

- 予約不要の会議は、即時会議のパラメータを使用して、会議の所要時間とサイズを判別します。Reservationless Meetings 機能が有効のときに、即時会議（または、開始時刻が現在またはそれ以前の会議）をスケジュールしようとして、会議 ID を指定しなかった場合、会議は予約不要の会議になります（予約不要の会議の詳細については、P.2-55 の「予約不要の会議について」を参照してください）。

キャパシティの管理について

システムの使用状況を監視および管理するために、さまざまな Cisco MeetingPlace キャパシティ管理ツールを使用できます。これらのツールは、システムの統計情報の概要を視覚的に表現するグラフを生成します。

Cisco MeetingPlace システムの使用状況を追跡することによって、次のことができます。

- 個別の会議とポートの使用状況を 1 日を通じて把握することによって、毎日のオペレーションを管理する。
- キャパシティの利用状況を監視して、システムが効率的かつ効果的に使用されているかどうかを判別する。
- Cisco MeetingPlace のユーザに提供しているサービス レベルを測定する。システム リソースを効率的に使用することによってスケジュールの失敗を防ぎ、サービス品質およびエンドユーザの満足度を保証できます。

Cisco MeetingPlace のキャパシティ管理ツールは、会議ポートの使用状況の傾向を評価するために役立ちます。レポートは、要約された Cisco MeetingPlace のデータに基づいたもので、正確な使用状況の報告よりも使用状況の分析に適しています。

要約された Cisco MeetingPlace のデータを使用しているため、Capacity Management レポートの精度は低下します。次の要因が、グラフの計算に影響を与えます。

- **固定参加者の仮定**：固定参加者を仮定するとは、すべてのレポート対象ポートが会議の開始時に接続し、会議の終了時まで維持されると単純に仮定することです。固定参加者には、遅れて接続する参加者や先に退席する参加者は含まれません。
- **自動延長ポート再スケジュール**：自動延長ポート再スケジュールは、Port Utilization グラフのスケジュールされたポート使用状況のグラフィカルな表現に影響を与えます。会議が長引いた場合、Cisco MeetingPlace は自動的に会議の所要時間を延長し、要求されたポートの数を変更します。延長時に、Cisco MeetingPlace は、元の要求されたポート数とは関係なく、現在のアクティブなポート数に基づいてポート割り当てを再スケジュールします。

たとえば、会議主催者が最初に 10 のポートを会議にスケジュールし、8 人のユーザが参加したとします。会議が長引いた場合、この会議は自動的に延長されます。ポート予約は、元の 10 ではなく、8 ポートに減少します。キャパシティ管理では、この最後に報告された値を、要求されたポートのグラフ化に使用します。

この 2 つの組み合わせによって、作成された Capacity Management グラフと実際の使用状況の間に、大幅な違いが生じることがあります。正確な会議統計情報を取得するには、Cisco MeetingPlace レポート（第 4 章「レポートの実行」を参照）を生成することをお勧めします。

キャパシティ管理ツールの使用方法

次の 2 種類のキャパシティ管理ツールを使用できます。

- 日次分析ツール：個別の会議とポートの使用状況に関する 1 日単位の情報と、数日間における最大使用状況に関する情報を生成します（詳細については、P.5-14 の「日次分析ツールについて」を参照してください）。
- 月次分析ツール：システムの会議使用状況の合計とスケジュールの競合に関する情報を 1 か月単位で生成します（詳細については、P.5-17 の「月次分析ツールについて」を参照してください）。

キャパシティ管理ツールを使用するには、次の一般的な手順に従います。各ツールの詳細については、P.5-14 の「日次分析ツールについて」および P.5-17 の「月次分析ツールについて」を参照してください。

-
- ステップ 1** MeetingTime で、**Capacity Mgmt** タブを選択します。
- ステップ 2** Capacity Management Tools に対して、日次分析ツールまたは月次分析ツールのいずれかを選択します。
- ステップ 3** Tool Attributes に対して、選択したツールの属性を設定します。
- ステップ 4** **Execute** をクリックします。

Cisco MeetingPlace は、Capacity Management Tools ウィンドウにグラフを生成し、表示します。

- ステップ 5** これで、次のことができるようになります。
- 他のキャパシティ管理ツールを **View** メニューまたはツールバーから選択する（各ツールについては、次の項で説明します）。
 - 各ツールの表示パラメータを設定して、グラフの別のデータおよび要素を表示する。設定するには、**View** メニュー > **Display Options** を選択します。次に、**Display Options** ダイアログボックスでオプションを選択し、**Done** をクリックします。
-

Cisco MeetingPlace には、次のキャパシティ管理ツールがあります。

日次分析ツール

- [日次分析ツールについて \(P.5-14\)](#)
- [Meeting List ツール \(P.5-14\)](#)
- [Port Utilization ツール \(P.5-14\)](#)
- [Unattended Ports ツール \(P.5-15\)](#)
- [Summary Port Utilization ツール \(P.5-15\)](#)

月次分析ツール

- [Conferencing Minutes ツール \(P.5-18\)](#)
- [Uncaptured Conferencing Traffic ツール \(P.5-19\)](#)
- [Opportunity Cost ツール \(P.5-19\)](#)
- [Scheduling Failures ツール \(P.5-20\)](#)

日次分析ツールについて

日次分析ツールは、指定された期間にスケジュールされた会議、会議に予約されたポートの合計数、実際に使用されたポートの数を表示します。

Meeting List ツール

Meeting List ツールは、指定した期間（日）にスケジュールされた会議を表示し、会議ごとにスケジュールされた所要時間およびスケジュールされたポート数を示します。リソース不足のためにユーザが会議をスケジュールできなかった場合は、このツールを使用して、必要なポートを解放するために再スケジュールが可能な会議を識別できます。

また、Meeting List ツールは、最近、現在、または近い将来の会議のリストを簡単に表示できます。

ステップ 1 MeetingTime の Capacity Mgmt タブにある Capacity Management Tools で **Meeting List** を選択します（または、**View** メニュー > **Meeting List** を選択します）。

ステップ 2 **Execute** をクリックします。

Cisco MeetingPlace が、Meeting List グラフを生成し、表示します。

ステップ 3 グラフに表示されている要素を変更するには、**View** メニュー > **Display Options** を選択します。

ステップ 4 Display Options ダイアログボックスでオプションを選択し、**Done** をクリックします。

次の情報をグラフに表示できます。

- スケジュールされた会議の開始時刻と終了時刻、および実際の開始時刻と終了時刻
 - 会議にスケジュールされたポート数、および実際に参加したユーザ数
-

Port Utilization ツール

Port Utilization ツールは、一定の期間について、スケジュールされたポート数と実際に使用されたポート数を 1 日単位で比較します。このツールを使用して、Cisco MeetingPlace システムのピーク時間帯とオフピーク時間帯を判別し、システムの使用状況を利用可能なキャパシティと比較できます。

ステップ 1 MeetingTime の Capacity Mgmt タブにある Capacity Management Tools で **Port Utilization** を選択します（または、**View** メニュー > **Port Utilization** を選択します）。

ステップ 2 **Execute** をクリックします。

Cisco MeetingPlace が、Port Utilization グラフを生成し、表示します。

ステップ 3 グラフに表示されている要素を変更するには、**View** メニュー > **Display Options** を選択します。

ステップ 4 Display Options ダイアログボックスでオプションを選択し、**Done** をクリックします。

Unattended Ports ツール

Unattended Ports ツールは、システムでスケジュールされたが、実際には使用されなかったポートの合計数を示します。これらの未使用ポートは、次の 2 つのカテゴリに分類されます。

- 実際の会議の参加者数より多くスケジュールされたポート
- 開催されなかった会議にスケジュールされたポート

Unattended Ports ツールは、オーバースブッキング ポートおよびフロータ ポート (P.5-2 の「ポート管理について」を参照) の適切な設定値を決定するために役立ちます。

ステップ 1 MeetingTime の Capacity Mgmt タブにある Capacity Management Tools で **Unattended Ports** を選択します (または、**View** メニュー > **Unattended Ports** を選択します)。

ステップ 2 **Execute** をクリックします。

Cisco MeetingPlace が、Unattended Ports グラフを生成し、表示します。

ステップ 3 グラフに表示されている要素を変更するには、**View** メニュー > **Display Options** を選択します。

ステップ 4 Display Options ダイアログボックスでオプションを選択し、**Done** をクリックします。

Cisco NCE は、Unattended Ports ツールを使用してオーバースブッキング ポートおよびフロータ ポートの適切な設定値を決定する支援を行います (『[Guide to Cisco Conferencing Documentation and Support](#)』の「Obtaining Technical Assistance」を参照してください)。

Summary Port Utilization ツール

システム管理者は Summary Port Utilization ツールを使用して、特定の数日間について、スケジュールされた最大ポート使用状況と実際の最大ポート使用状況を表示できます。このツールは Summary Port Utilization グラフを生成します。

各グラフは、最長 1 か月間の最大ポート使用状況をポート利用率の要約と共に表示し、オプションで次の情報を表示できます。

- スケジュールされたポートの平均と分布範囲
- 実際に使用されたポートの平均と分布範囲

表示される情報は、含めるように要求したデータとサーバから取得した利用可能なデータの組み合わせです。




ステップ 1 MeetingTime の Capacity Mgmt タブにある Capacity Management Tools で **Summary Port Utilization** を選択します (または、**View** メニュー > **Summary Port Utilization** を選択します)。

ステップ 2 **Execute** をクリックします。

Cisco MeetingPlace が、Summary Port Utilization グラフを生成し、表示します。

- スケジュールされたポートの最大使用状況と実際のポートの最大使用状況が、影付きの領域の上に細い実線で示されます。

- 影付きの領域は、スケジュールされたポートの使用状況と実際のポートの使用状況の範囲を示します。太い点線は、スケジュールされたポートの使用状況と実際のポートの使用状況の平均を示します（各 Summary Port Utilization グラフに含まれる情報は、Display Options ダイアログボックスの設定によって異なります）。
- ウィンドウの右下のカレンダー凡例は、次の表で説明するように、未加工のデータの評価方法を示します。

要素	説明
	Summary Port Utilization にこの日のデータがあり、このデータを使用して Average 値および Demand Range 値を計算した。
	この日をグラフに含めるように（Display Options ダイアログボックスで）選択されているが、取得したデータにはこの日の会議情報がない。
	この日をグラフに含めるように（Display Options ダイアログボックスで）選択されていない。

ステップ 3 グラフに表示されている要素を変更するには、**View** メニュー > **Display Options** を選択します。

ステップ 4 Display Options ダイアログボックスでオプションを選択し（表 5-5 の説明を参照）、**Done** をクリックします。

表 5-5 Summary Port Utilization ツールの表示オプション

指定する項目	操作
それぞれの日の時間範囲	Starting および Ending で時間を選択します。
グラフに含める日	Summarize Days in Week で、次のいずれかを実行します。 <ul style="list-style-type: none"> 個別の日を含めるには、含める日のチェックボックスをオンにします。 平日を含めるには、Monday-Friday をクリックします（このオプションを選択解除するには、もう一度ボタンをクリックします）。 1 週間の 7 日間をすべて含めるには、All Days をクリックします（このオプションを選択解除するには、もう一度ボタンをクリックします）。
グラフに表示する情報	Summary Port Utilization Graph で、オプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> Show Average of Scheduled Ports は、選択した日のすべてのデータの平均を示す実線を表示します。 Show Demand Range of Scheduled Ports は、平均の上下に、ポート需要全体の 50% の分布を表す影付きの領域を表示します。 Show Average of Actual Port Usage は、選択した日の実際のポート使用状況の平均を示す点線を表示します。 Show Demand Range of Actual Port Usage は、平均の上下に、実際のポート需要の 50% の分布を表す影付きの領域を表示します。

**ヒント**

以前の Cisco MeetingPlace Audio Server リリース (Release 5.0 など) からの最大使用状況分析ができません。分析を行うには、旧リリースで **Daily Analysis** グラフを作成し、ファイルに保存します (**File** メニュー > **Save As** を選択)。次に、このファイルを Release 5.3 で開き、上の手順で **Summary Port Utilization** グラフを作成します。

月次分析ツールについて

月次分析ツールは、システムの会議の拡大を確認し、Cisco MeetingPlace をアップグレードする適切な時期を判別するために役立つ情報を示します。

MeetingTime が月次分析グラフを作成するために使用するデータは、Cisco MeetingPlace システムに格納され、一定期間が経過すると消去されます。このデータを Cisco MeetingPlace が格納する期間中は、Configure タブの Scheduling Parameters の下にある Days Until Mtg Stats Purged パラメータで決まります。

月次分析ツールを初めて実行した後、アプリケーションを終了する前に、その月のデータが中央ロケーションの履歴ファイルに保存されます (情報は、グラフを含めて、別のワードプロセッサにコピーアンドペーストできます)。これによって、システムから消去された後も、データは利用可能です。このファイルを作成した後、Cisco MeetingPlace システムに関する情報をアーカイブできるように、毎月アップデートする必要があります。履歴ファイルをアップデートすると、現在の月のデータが既存のデータに追加されます。データ ファイルに格納された情報を分析することで、会議データが消去された後も、システムの使用状況の傾向を判別できます。

履歴ファイルの作成

ステップ 1 月次分析ツールを実行します。

ステップ 2 Capacity Management ウィンドウで **File** メニュー > **Save** を選択し、このファイルの名前とディレクトリを指定します。

初めて履歴データ ファイルをアップデートするときに、上で指定したファイル名を入力する必要があります。以後、MeetingTime は、MeetingTime 属性に入力されたファイル名を記憶します。

履歴ファイルのアップデート

ステップ 1 MeetingTime の Capacity Management タブで、使用する月次分析ツールを選択します。

ステップ 2 Update History File パラメータで **Yes** を選択し、このファイルのディレクトリを入力します。

ステップ 3 **Execute** をクリックします。

Capacity Management Tool ウィンドウが表示されます。

ステップ 4 **File** メニュー > **Save** を選択します。

Conferencing Minutes ツール

Conferencing Minutes ツールは、システムで開催された毎月の会議時間（分）を集約し、ポート単位に表示します。システムの会議の拡大を管理しやすいように、このツールは、システムが輻輳レベルに達した時期を示す使用状況のしきい値の線を表示します（使用状況のしきい値の線は、システムにキャパシティが追加された時期も示します）。

使用状況のしきい値を表示するには、次の手順に従います。

ステップ 1 View メニュー > **Display Options** を選択します。

ステップ 2 Display Options ダイアログボックスで、**Show usage thresholds** を選択します。

Display Options ダイアログボックスを使用して、毎月の会議時間（分）をポート単位に表示することもできます。

キャパシティの管理に関する推奨事項

Cisco MeetingPlace システムが効率的に使用されているかどうかを判別するには、毎月末に、Conferencing Use (minutes per port) キャパシティ管理ツールを使用します。表 5-6 で、使用状況のしきい値のレベルの解釈方法を示します。

表の数字は、組織に対して推奨されるターゲット ポイントです。会議数が最大になる営業時間、各国での使用状況、システムのサイズ、特定の会議アプリケーションなどの要因によって、結果が変わることがあります。Cisco MeetingPlace の使用状況とサービス レベルを継続して追跡することによって、組織にとって適切な分 / ポートの会議レベルを定義できるようになります。



(注)

これらのトラフィック レベルの説明は、スケジュールされた会議を対象としており、予約不要のシステムには適用されません。予約不要のシステムのサービス品質は、トラフィックが「効率的な使用状況」のゾーンから外れると、急速に低下します。スケジュールされた会議は別の時間に再スケジュールできますが、予約なしの会議でポートが利用できないと、ユーザはシステムの障害が発生したと考えます。予約不要のシステムでは、最大トラフィック需要が利用可能なキャパシティを超えないよう、平均トラフィックが「効率的なゾーン」に納まるようにすることをお勧めします。

表 5-6 しきい値のレベル

しきい値のレベル	分 / ポート (1 か月)	説明
効率的な使用状況 (黄色の線の下)	1,500 以下	システムは効率的に動作しています。キャパシティは利用可能で、会議を延長および拡大できます。
混雑している使用状況 (黄色の線と赤い線の間)	1,500 ~ 2,000	会議のスケジュールおよび開催はできますが、利用できる会議ポートがないために、いくつかのスケジューリング要求が満たされることがあります。ユーザの満足度が下がり始めます。 システム管理者は、スケジュールの失敗をなくすために、キャパシティを追加する必要があります。

表 5-6 しきい値のレベル (続き)

しきい値のレベル	分 / ポート (1 か月)	説明
制約される使用状況 (赤い線の上)	2,000 以上	<p>ポートの使用率が高いために、スケジュールや参加ができなくなることが多くなります。溢れたトラフィックは、主にサービスビューローに向かいます。ピーク時には、会議を延長および拡大することができません。</p> <p>システム管理者は、キャパシティを追加する必要があります。</p>

Cisco MeetingPlace には、一般的な会議の使用状況に基づいた使用状況のしきい値のデフォルト値が用意されていますが、これらのデフォルト値は企業に固有の会議環境に合わせてカスタマイズする必要があります。

スケジュールの失敗は、ユーザが会議に参加できない、または会議をスケジュールできないことを意味します。ピーク レベルの使用状況をチェックしてください。支援やアドバイスが必要な場合は、『[Guide to Cisco Conferencing Documentation and Support](#)』の「Obtaining Technical Assistance」を参照してください。

使用状況のしきい値を変更するには、次の手順に従います。

- ステップ 1 グラフに使用状況のしきい値が表示されていることを確認します。
- ステップ 2 View メニュー > **Adjust Thresholds** を選択します。
- ステップ 3 適切な値を入力します。

しきい値の調整の詳細については、『[Guide to Cisco Conferencing Documentation and Support](#)』の「Obtaining Technical Assistance」を参照してください。

Uncaptured Conferencing Traffic ツール

Uncaptured Conferencing Traffic ツールは、システムが混雑していたために Cisco MeetingPlace で案内できなかった会議の時間 (分) を月単位で表示します。システムのアップグレードによって、Cisco MeetingPlace はこの追加の会議需要を満たすことができるようになります。

Opportunity Cost ツール

Opportunity Cost ツールは、キャプチャされなかったトラフィックが Cisco MeetingPlace が利用可能になるまで待機するのではなく、サービス ビューローに向かったという前提で、費やしたコストを計算します。

キャプチャされなかったトラフィックのコストを Cisco MeetingPlace で正確に計算できるように、1 分当たりのサービス ビューローのコストを米セント単位で入力する必要があります。このレートは、Capacity Management タブまたは Display Options ダイアログボックスのツール属性領域に入力します。

Scheduling Failures ツール

Scheduling Failures ツールは、ポートが不足していたために満たされなかったスケジュール試行の割合を表示します。このツールは、システムが混雑していたために Cisco MeetingPlace が会議をスケジュールできなかった頻度をグラフで示します。

システムのサービス レベルの判別

毎月の分 / ポートの比率の判別に加えて、Scheduling Failures グラフを表示して、システムで発生したスケジュールの失敗の割合を判別できます。

スケジュールの失敗の割合が 5% を超える場合は、Scheduling Failures レポート (P.4-9 の「[Scheduling Failures レポート](#)」を参照) を実行して、各失敗について詳細な情報を調べます。通常、このようなスケジュールの失敗は、次の 2 種類に分類されます。

- **利用可能なポートが不足している** : この問題を解決するには、Port Utilization キャパシティ管理ツールを実行して、Cisco MeetingPlace が最も混雑する時間を判別し、オフピーク時に会議をスケジュールするように、ユーザに提案します。
- **要求された会議 ID が現在利用できない** : この問題を解決するには、一般的に使われる数字の ID ではなく、個人用にカスタマイズしたスタッフ会議 ID をユーザに割り当て、この ID で会議をスケジュールするよう依頼します。2 つの会議が同時に同じ会議 ID でスケジュールされると、スケジュールの競合が発生します。

ディスク領域の使用状況の最適化について

ディスク領域の使用状況を最適化するには、まず、System タブの View Disk Usage オプションと、Disk Usage レポートを使用してディスク使用状況統計情報を収集します。

ディスク使用状況統計情報の表示

現在 Cisco MeetingPlace システムで使用されているディスク領域の大きさを監視できます。ユーザーごとに使用状況統計情報を表示する Disk Usage Information レポート (P.4-12 の「Disk Usage Information レポート」を参照) とは異なり、このディスク使用状況統計情報には、次のような、Cisco MeetingPlace システム全体の値が含まれます。

- ディスク上の音声記憶域の合計 (分)
- 会議の議題の時間 (分)
- 会議のゲスト名の時間 (分)
- システム プロファイル名の時間 (分)
- カスタム プロンプトの時間 (分)
- 会議名の時間 (分)
- 会議の記録の時間 (分)
- その他の記録領域の時間 (分)
- ディスク上で利用可能な音声記憶域の合計

システム ディスクの使用状況統計情報を表示するには、次の手順に従います。

ステップ 1 MeetingTime の System タブで、**View Disk Usage Statistics** を選択します。

ステップ 2 **Execute** をクリックします。

システム全体のパラメータの割り当て

Configure タブの Scheduling Parameters トピックおよび Server Configuration トピックを使用して、表 5-7 で説明するように、システム全体のパラメータを割り当てることができます。

表 5-7 システム全体のパラメータ

トピック	パラメータ	説明
Scheduling Parameters	Max mtg recdg length (min)	会議を記録できる時間の上限 (分)。ディスク領域の管理が必要な場合に、このパラメータを設定します。
Scheduling Parameters	# of days to retain	ディスク領域の制限に応じて設定します。この設定はユーザーに通知し、変更される可能性があることを注意します。このパラメータを変更した場合、新しくスケジュールまたは再スケジュールされる会議だけが影響を受けます。
Server Configuration	Max recdg space (min)	会議がスケジュールされたときに十分なディスク領域がある場合は、会議全体を記録できるだけの領域が予約されます。実際には記録しない会議用に領域を予約するユーザーもいます。

記録パラメータおよびメッセージパラメータ

次のシステム全体のスケジューリングパラメータおよび記録パラメータも、会議で利用できる時間およびディスク領域の使用状況に影響を与えます。

- Max agenda recdg (sec)
- Max mtg name recdg (sec)
- Max user name recdg (sec)
- Max voice comment (sec)
- Max mtg message length (sec)

ディスク領域の使用状況は、表 5-8 で示すプロファイルユーザの個人の記録パラメータを設定することによっても制御できます。

表 5-8 記録パラメータおよびメッセージパラメータ

パラメータ	説明	選択肢
Able to record meetings?	システム管理者が設定します。ユーザは変更できません。	Yes または No
Record Meetings?	Able to Record Meetings? が Yes の場合、このパラメータによって、会議を自動的に記録するかどうかが決まります（ユーザが会議中に手動で記録をオフにした場合を除く）。 推奨値は No です。	Yes または No

継続会議がディスク領域リソースに与える影響

記録がある会議に消去不可（消去できない）というマークが付いている場合、システムはこのリソースを次のように管理します。

- 会議の記録に関連付けられている音声記憶域の予約を削除する。
- 会議の記録の長さを実行中の消去不可の会議の記録の合計に追加する。
- 消去不可の会議で消費された分、利用可能な音声記憶域の合計容量を減らす。
- 会議に消去不可のマークを付ける。

記録がある消去不可の会議に消去可能のマークが付けられた場合、システムはこのリソースを次のように管理します。

- 会議の記録の長さを実行中の消去不可の会議の記録の合計から減算する。
- その会議の記録用に、指定された消去日までの新しい音声記憶域を予約する。
- 利用可能な音声記憶域の合計を増やす。
- 会議に消去可能のマークを付ける。

Report タブの Disk Usage Information レポートおよび Permanent Meetings レポートを使用すると、ディスク領域を消費しているユーザを判別できます。

ユーザ アクセスの管理について

スケジューリングパラメータによって、会議をスケジュールするときにユーザに与えられる柔軟性が指定されます。いくつかの設定は、ディスク領域にも影響を与えます。表 5-9 で、ユーザアクセスに影響を与えるパラメータを示します（すべてのスケジューリングパラメータのリストについては、P.3-21 の「スケジューリングパラメータの表」を参照してください）。

表 5-9 ユーザアクセスパラメータ

パラメータ	説明
Max meeting length (min)	設定可能な最大値は 1440 分（24 時間）です。
Max ports per meeting	臨時ポートまたはフロータポートは含みません。
Max advance days to schedule	設定可能な最大値は 330 日です。
Max agenda recdng (sec)	記録済みの議題の最大長です。
Max mtg name recdng (sec)	会議名の最大長です。
Max user name recdng (sec)	ユーザ名の最大長です。
Max mtg message length (sec)	単一会議メッセージの最大長です（秒）。
Days until mtg stats purged	会議データの履歴をシステムに保存する日数です。 会議に関連付けられたすべての記録が消去されます。システム管理者、出席者、および会議の連絡先は、個別の会議の記録を必要に応じて消去できます。

通知の管理について

Cisco MeetingPlace は、ユーザが会議をスケジュール、再スケジュール、またはキャンセルしたときに、招待された参加者全員に自動的に電子メール通知を発信できます。この機能は、購入した統合製品およびユーザのプロファイルプリファレンスの設定値に依存します。通知は、予約不要の会議では配信されません。

Cisco MeetingPlace Notification Option は、監視または保守の必要がほとんどありません。ただし、特定の会議または要求に関する通知のステータスを判別する必要があることがあります。ここでは、発生する可能性がある問題の確認と診断の方法について説明します。

サーバが通知を送信する方法

会議のスケジュールや再スケジュール、参加者の招待または招待の解除、添付の追加または置換など、特定のイベントが通知プロセスをトリガします。Cisco MeetingPlace は、すべての会議参加者に、自動的に通知を送信します。

サーバ通知のステータスの表示

「ディスパッチ」は、統合アプリケーションで配信することを目的とした文書のセットです。一般的なディスパッチは、通知（および添付が含まれている場合は添付）と、予約不要の会議のスケジュールです。通知タイプのディスパッチは、スケジュールリング イベントの結果として Cisco MeetingPlace が発信するか、ユーザが要求した通知（電話で呼び出し、会議情報を要求した場合）として発信されます。

キューに含まれる要求のバックログや、特定のイベントのステータスなど、サーバ通知のステータスを表示するには、次の手順に従います。

- ステップ 1 MeetingTime の System タブで、**Notification Queue Status** アクションを選択し、**Execute** をクリックします。
- ステップ 2 ステータス ウィンドウで、ステータスを表示する通知メッセージをクリックします。
- ステップ 3 Disposition 領域に、通知のステータスが表示されます。
通知の失敗の一般的な原因は、次のとおりです。

失敗ステータス メッセージ	説明
Party has notif off	目的の受信者が、プライマリ通知方式と代替通知方式の両方に <i>None</i> を選択しています。
E-mail is not selected by user	受信者は通知方式として <i>e-mail</i> を選択していますが、電子メールシステムの <i>type</i> を指定していません。
User has no primary notif method	受信者がプライマリ通知方式を指定していません。

失敗の原因がわからない場合は、『[Guide to Cisco Conferencing Documentation and Support](#)』の「Obtaining Technical Assistance」を参照して、支援を求めてください。

- ステップ 4 ウィンドウを閉じるには、**Done** をクリックします。
通知をキャンセルするには、[P.5-25](#) の「サーバ通知のキャンセル」を参照してください。

会議通知のステータスの表示

特定の問題を診断するために、さらに情報が必要になることがあります。会議 ID、日付、要求者を使用して、特定の会議を検索し、特定の会議の通知のステータスを **Schedule** タブ、**Attend** タブ、または **Review** タブに表示できます。

ステップ 1 **Schedule** タブ、**Attend** タブ、または **Review** タブで、ステータスを表示する会議レコードをクリックします。

ステップ 2 **Participants** ボタンをクリックします。

ステップ 3 **Notification** 領域で、**Status** ボタンをクリックします。

Notification Status ウィンドウが開きます。会議に文書が添付されている場合は、文書に関する情報が **Attachment Information** リストに表示されます。添付に関する詳細を表示するには、**Details** ボタンをクリックします。

ステップ 4 **Done** をクリックします。

サーバ通知のキャンセル

通知のステータス情報を表示し、問題を診断した後、通知のいずれかまたはすべてをキャンセルできます。通知をキャンセルする理由には、次のものがあります。

- 会議に招待した参加者が間違っていた。
- レンダリングできない画像を会議に添付した。

ステップ 1 **Server Notification Status** ウィンドウで、キャンセルする通知メッセージをクリックします。

ステップ 2 **Cancel Notification** (選択した通知のみをキャンセル) または **Cancel All** (すべての通知をキャンセル) をクリックします。

確認メッセージが表示されたら、**Yes** をクリックして、選択した通知をキャンセルします。

ステップ 3 **Done** をクリックして終了します。

ワークステーション接続の管理

ユーザが利用できる大量のワークステーション接続を管理するために、Cisco MeetingPlace は、表 5-5 で説明するオプションを提供します。

表 5-10 ワークステーション接続オプション

処理	説明
現在の接続を表示する	<p>System タブの Current PC Connections トピックで、MeetingTime の接続と、現在ログインしている統合アプリケーションを表示できます。</p> <p>PC Connections ダイアログボックスに、ユーザ ID、クライアントの種類、および IP アドレスがアクティブな接続ごとに表示されます。必要に応じて Update ボタンをクリックして、ダイアログボックスをリフレッシュします。</p>
常にシステム管理者のアクセスを許可する	<p>すべての MeetingTime ライセンスが、会議のスケジュール、参加、またはレビューに使用されることがあります。</p> <p>すべての MeetingTime ライセンスが使用されている場合、システムは、1 人のシステム管理者がシステムに入ることを許可します。</p>
アイドル接続からログオフする	<p>Configure タブの Usage Parameters トピックを使用して、MeetingTime の接続をアイドル状態に維持する時間を指定する Minutes Before Auto Logoff パラメータを割り当てることができます。</p> <p>このパラメータは、MeetingTime の接続がアイドルになってから、接続が切断されるまでの時間 (分) を制御します。MeetingTime にログオンしているユーザの中には、アクティブにシステムを使用していないユーザもいます。</p>

System Manager Agents について

System Manager Agents を使用して、システム管理者は、表 5-11 で説明するパラメータを設定できます。

表 5-11 System Manager Agents

パラメータ	説明
参加者不在の定例会議	<p>事前定義された期間より長い間、定例会議の参加者が不在である場合、電子メール通知が会議の主催者に送信され、一連の定例会議の残りをキャンセルするように勧告されます。</p> <p>この会議が Cisco MeetingPlace Web または MeetingTime からスケジュールされていた場合は、通知に Click Here to Cancel Meetings リンクが含まれ、Cisco MeetingPlace Web のキャンセル ページにユーザが案内されます。会議がグループウェア (Microsoft Outlook、IBM Lotus Notes など) からスケジュールされていた場合は、ユーザのグループウェアからキャンセルするように勧告されます。</p>
定例会議の終了	<p>ほとんどの場合、有効期限が切れる前の指定された期間内に一連の定例会議が存在すると、会議の主催者に電子メール通知が送信されます。この通知は、一連の定例会議に有効期限が設定されていることを知らせ、定例会議を継続する場合は新しい定例会議をスケジュールするように主催者に提案します。例外は、Periods Before Recurring End パラメータに設定されている値が一連の定例会議の会議数より大きい場合で、この場合、通知は送信されません。</p> <p>この会議が Cisco MeetingPlace Web または MeetingTime からスケジュールされていた場合は、通知に Click Here to Schedule Another Series リンクが含まれ、会議を継続できるスケジュールリング ページにユーザが案内されます。会議がグループウェア (Microsoft Outlook、IBM Lotus Notes など) からスケジュールされていた場合は、ユーザのグループウェアから一連の定例会議を延長するように勧告されます。</p> <p>定例会議は有効期限に向けて継続されるため、その他の通知は送信されません。</p>

次の点に留意してください。

- この機能は、リリース 4.2.0 以前の Cisco MeetingPlace SMTP E-Mail Integration Application ではサポートされません。
- この 2 つの定例会議のトリガが重複した場合は、参加者不在の定例会議トリガが定例会議の終了トリガより優先されます。スケジュール担当者は、参加者不在の通知のみを受け取ります。


System Manager Agents の設定

System Manager Agents は、システム全体のパラメータです。

-
- ステップ 1** MeetingTime にログインし、**Configure** タブをクリックします。
- ステップ 2** **Scheduling Parameters** ビューを選択します。

ステップ 3 **Attributes** で Scheduling Notifications セクションまでスクロールし、次の属性を設定します。

Table 1:

クリックする属性	Values 領域をクリックした後に行う操作
After # no-show recurring mtgs	<p>システムが通知をトリガするまでに許可される参加者不在の定例会議の回数を示す数字を選択します。</p> <p>たとえば、この値が 2 の場合、2 回連続して参加者不在の定例会議が発生したときに、システムが会議のスケジュール担当者に通知を送信します。</p> <p>参加者不在の通知を行わない場合は、この値を 0 (ゼロ) に設定します。</p> <p> (注) この機能は、参加者不在の会議が連続した回数に依存します。参加者不在の会議の後で、参加者が存在する会議が開催された場合、参加者不在の会議の回数は 0 に戻ります。</p>
Periods before recurring end	<p>最後の定例会議の前に、会議の終了通知をトリガするまでの会議の回数を選択します。</p> <p>たとえば、この値が 1 の場合は、最後の定例会議の 1 回前の会議で、システムは会議のスケジュール担当者に、一連の定例会議を新たにスケジュールするかどうかを尋ねる通知を送信します (ただし、この値に一連の定例会議の会議数より大きな値が設定されている場合は、通知は送信されません)。</p> <p>会議の終了の通知を行わない場合は、この値を 0 (ゼロ) に設定します。</p>

ステップ 4 **Save Changes** をクリックします。

情報のバックアップについて

システムに格納されている情報のバックアップは、ハードウェアまたはソフトウェアの障害、ユーザのエラーなどの緊急事態からの回復に不可欠です。

システムでハードウェアまたはソフトウェアの障害が発生した場合は、システム ファイルをバックアップ ディレクトリから復元する必要があります (バックアップ ファイルを復元するには、『[Administrator's Guide for Cisco MeetingPlace Network Backup Release 5.3](#)』、または『[Guide to Cisco Conferencing Documentation and Support](#)』の「Obtaining Technical Assistance」を参照してください)。

表 5-12 で、3 つのバックアップ方式について説明します。

表 5-12 システム バックアップ方式

方式	説明
ディスク バックアップ	<p>冗長性機能として、Cisco MeetingPlace サーバ データベースは、2 つの異なるディスク ドライブ (Disk 1 と Disk 2) に格納されます。1 つはプライマリ ドライブとして、もう 1 つはバックアップ ドライブとして設定されます。Disk 1 のデータベースがアクティブ データベースの場合、システムは定期的に内容の「スナップショット」をとり、すべてのデータベースの内容を Disk 2 のデータベースにコピーします。</p> <p>バックアップの頻度は、Disk 1 のデータ量 (特に、ユーザ プロファイル、将来と過去の会議レコード) によって決まります。たとえば、フルのデータベース (代表例として、1000 ポートのシステム) は、1 日に 1 回程度バックアップを実行しますが、小さなデータベース (代表例として、144 ポートのシステム) は、1 日に数回バックアップを実行します。このプロセスは、システムの運用中にバックグラウンドで実行されます。このプロセスによってシステムのパフォーマンスに影響を受けることはありません。</p> <p>Disk 1 に障害が発生した場合、システムは、データベースの最新のコピーが格納された Disk 2 を使用して再起動できます。Disk 2 に障害が発生した場合、システムは運用を継続しますが、Disk 2 の音声ファイルは失われます。</p>
シャドウ サーバ バックアップ	<p>シャドウ サーバは、システムまたはサイトに障害が発生した場合に、会議サーバと置き換えることができます。シャドウ サーバのスイッチオーバーにより、最低限の時間的損失とサービスの中断で、Cisco MeetingPlace 機能全体 (音声データと添付データ以外) を復旧できます。詳細については、『Installation and Upgrade Guide for Cisco MeetingPlace Audio Server Release 5.3』を参照してください。</p>
ネットワークのバックアップ	<p>第 2 の対策として、LAN 上のコンピュータへの通常ファイルの転送をスケジュールし、実行できます。このファイルは次に、企業で確立されている手順に従って、バックアップできます。ネットワーク バックアップでは、Cisco MeetingPlace データベースに保存されている設定とスケジュールされた会議の情報だけがコピーされます。プロフィール名や会議の記録など、音声の記録はバックアップに含まれません。</p> <p>バックアップに必要な時間は、システムへの負荷によって決まります。一般に、Cisco MeetingPlace データベースのバックアップに必要な時間は 1 時間です。バックアップ時に、会議およびスケジューリング アクティビティによる高い負荷がシステムにかかる場合、バックアップの時間が長くなる場合があります。</p> <p>バックアップをスケジュールする時期と頻度は、ユーザ数、システムの設定を変更する頻度、企業のバックアップ ガイドラインによって異なります。詳細については、『Administrator's Guide for Cisco MeetingPlace Network Backup Release 5.3』を参照してください。</p>

ネットワーク バックアップの実行

ネットワーク バックアップを実行する前に、Cisco MeetingPlace Network Backup をインストールし、設定する必要があります。詳細については、『[Administrator's Guide for Cisco MeetingPlace Network Backup Release 5.3](#)』を参照してください。

ネットワーク バックアップを実行するときは、次のガイドラインに従います。

- 毎日定期的にバックアップをスケジュールする。
- バックアップは夜間にスケジュールする。

ネットワーク バックアップの開始

バックアップは、通常の営業時間内にスケジュールできます。システムの使用中でもかまいません。ただし、日中に行われたデータベースへの変更がバックアップに含まれるように、夜間にシステムをバックアップすることをお勧めします。

-
- ステップ 1** Cisco MeetingPlace Network Backup アプリケーションがインストールされ、設定されていることを確認します。
- ステップ 2** ワークステーションから MeetingTime にログインします。
- ステップ 3** System タブで、**Database Backup** アクションを選択します。
- ステップ 4** Frequency 属性で、バックアップを実行する頻度と時間を選択します。

作業内容	操作
即時に 1 回バックアップする	Once を選択し、 Execute をクリックします。
指定した時刻に定期的にバックアップする	Recurring を選択します。次に、If Recurring, Hr. of Day 属性で、バックアップを開始する時刻を入力します。Recurring Every x Days 属性で、バックアップの間隔を日単位で入力します（たとえば、隔日でバックアップを行うには、 2 を入力します）。次に Execute をクリックします。

ネットワーク バックアップの結果の表示

システムは、システムの情報すべてのフル バックアップを実行すると、バックアップの出力を Results of Last Backup 属性に表示します。

-
- ステップ 1** MeetingTime の System タブで、**Database Backup** アクションを選択します。
- ステップ 2** Results of Last Backup 属性で、Values 領域をクリックします。

ウィンドウにバックアップの結果が表示されます。

バックアップ中に問題が発生した場合、システムはアラームを生成し、最後のバックアップ フィールドの結果に問題の説明を記録します。



(注) バックアップファイルを復元するには、『*Administrator's Guide for Cisco MeetingPlace Network Backup Release 5.3*』、または『*Guide to Cisco Conferencing Documentation and Support*』の「Obtaining Technical Assistance」を参照してください。

停止の計画について

Cisco MeetingPlace システムをシャットダウンし、再起動する必要がある場合があります。たとえば、交換機室に問題が発生したときや、停電があるときです。ここでは、停止の準備と計画について説明します。



(注)

運用可能な Smart Blades の数が、元のキャパシティの 25% 以下になった場合、システムは自動的に再起動します。また、システムを IP 用に設定した場合は、IP 機能が完全に失われると再起動します。

円滑にシャットダウンするには、システムをシャットダウンする前に、ここで説明する手順に従う必要があります。



注意

Cisco MeetingPlace 8100 シリーズを正しくシャットダウンしなかった場合、Cisco MeetingPlace Audio Server システムがデータベースの完全な整合性チェックを実行するため、システムの再起動に最大 1 時間かかります。

システムのシャットダウンの準備

システムをシャットダウンする前に、システムが利用できなくなることをユーザに通知します。システムのシャットダウンの前にユーザに通知するには、次のいずれかを実行します。

- 進行中の会議に参加する。
- 先に音声メッセージを送信する。
- 先に電子メールメッセージを送信する。

シャットダウンする時刻、シャットダウンする期間、システムを再起動する時刻をユーザに通知します。



ヒント

システムが利用できなくなると予測される期間、すべてのポートがビジー状態になるように、すべてのポートをスケジュールするという方法があります。これによって、シャットダウンの期間中にユーザが会議をスケジュールできなくなります（詳細については、[P.3-14](#)の「[全ポート予約会議について](#)」を参照）。

システムのシャットダウン レベルについて



システムのステータスおよび要件の性質に応じて、いくつかのシャットダウンのレベルを使用できます。

- システムが「完全に運用可能」な場合、ユーザはワークステーションまたは電話から Cisco MeetingPlace にアクセスし、会議のスケジュール、会議への参加、ユーザプロファイルの変更ができます。
- System Shutdown ウィンドウで *telephony shutdown* を実行すると、システムは動作し続けますが、ユーザは電話から Cisco MeetingPlace にアクセスできなくなります。これによって、システム管理者は、干渉なしにデータベースをシステムレベルで変更できます。
- *full shutdown* を実行すると、電源をオフにする前に、システムが順にシャットダウンします。*full shutdown* の間、ユーザは Cisco MeetingPlace にアクセスできません。

- *system restart* を実行すると、システムは完全シャットダウンを開始し、オペレーティング システムを再起動します。system restart の間、ユーザは Cisco MeetingPlace にアクセスできません。

表 5-13 に、シャットダウンのレベルをまとめます。

表 5-13 シャットダウンのレベル

シャットダウンのレベル	システム アクティビティ
Telephony shutdown	スケジューリング パラメータの変更、トランク設定の変更など、システムレベルのデータベースの変更ができるように、ユーザのコールを禁止します。
Full shutdown	システムの電源をオフにする前に、順番にシャットダウンを完了します。  警告 このオプションは、電源をオフにする「前」に起動してください。この手順に従わないと、システムの再起動に通常より長い時間が必要になります。このオプションは、カスタマー サポート担当者の指示があった場合にのみ選択します。
System restart	完全にシャットダウンし、オペレーティング システムを再起動します。  警告 この手順は、正しく実行しないと、深刻な影響が発生します。カスタマー サポート担当者の指示がない限り、システムをリブートしないでください。

シャットダウンの開始

MeetingTime のシャットダウン ボタンを実行してから 15 分以内に、システムの電源を切る必要があります。経過時間が 15 分を超えると、システムは自動的に再起動します。詳細については、『[Guide to Cisco Conferencing Documentation and Support](#)』の「Obtaining Technical Assistance」を参照してください。

- ステップ 1 MeetingTime の System タブで、**System Shutdown** アクションを選択します。
- ステップ 2 **Type** 属性を選択します。
- ステップ 3 Cisco MeetingPlace 8106 または Cisco MeetingPlace 8112 をシャットダウンするには、**Full shutdown** を選択します。

スタンドアロンの Cisco MeetingPlace システムの場合、Server フィールドは読み取り専用です。

ステップ 4 When 属性で、シャットダウンを実行するタイミングを選択します。

シャットダウンを実行するタイミング	操作
即時	Immediate を選択し、 Execute をクリックします。
指定した時間	<p>Courtesy を選択します。Delay 属性を選択し、シャットダウンを開始するまでの時間を分単位で入力します。次に Execute をクリックします。</p> <p>シャットダウンをユーザに通知していない場合は、この時間を使って通知します（詳細については、P.5-32 の「システムのシャットダウンの準備」を参照してください）。この間に、Cisco MeetingPlace がシャットダウンする前に電話を切るように、ユーザに依頼します。</p> <p>この間、ユーザは MeetingTime にログインできません。遅延時間が終了すると、すべてのユーザがシステムから接続解除されます。</p>

Cisco MeetingPlace 8106 サーバの起動



警告

停電などが原因でシステムが正常にシャットダウンされなかった場合、システムが使用しているディスクの数によっては、再起動に通常より長い時間がかかる可能性があります。



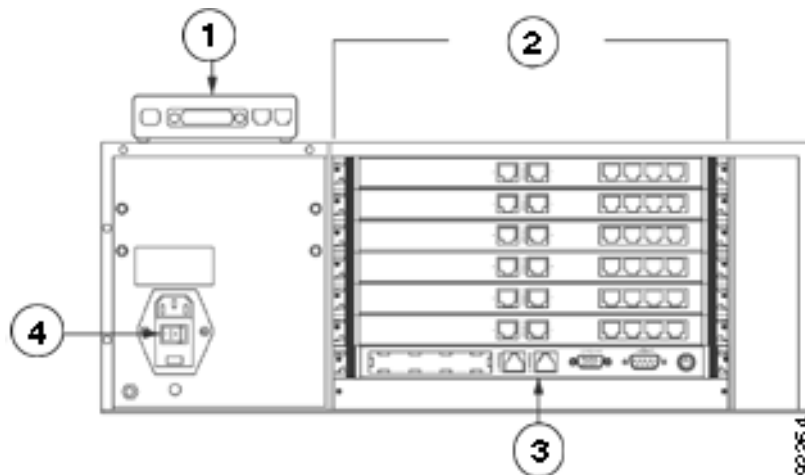
注意

Cisco MeetingPlace 8106 サーバは、必ず、Cisco NCE の指示に従って起動してください（『[Guide to Cisco Conferencing Documentation and Support](#)』の「Obtaining Technical Assistance」を参照）。

ステップ 1 Cisco MeetingPlace 8106 シャーシの背面にあるサーバの電源スイッチを ON, 1 の位置に移動します。

ステップ 2 サーバが起動するまで 10 分程度待ちます。

図 5-4 Cisco MeetingPlace 8106 サーバの背面



1	モデム	3	CPU トランザクション モジュール
2	ブレードスロット (1 ~ 6)	4	電源スイッチ

システムは停電の後にアラームを生成します。システムが正常に動作していたら、アラームをクリアします。停電の後、システムが回復しない場合、または異常な動作をした場合は、『[Guide to Cisco Conferencing Documentation and Support](#)』の「Obtaining Technical Assistance」を参照してください。Cisco MeetingPlace 8106 または Cisco MCS をリポートしないでください。

Cisco MeetingPlace 8112 サーバの起動



警告

停電などが原因でシステムが正常にシャットダウンされなかった場合、システムが使用しているディスクの数によっては、再起動に通常より長い時間がかかる可能性があります。



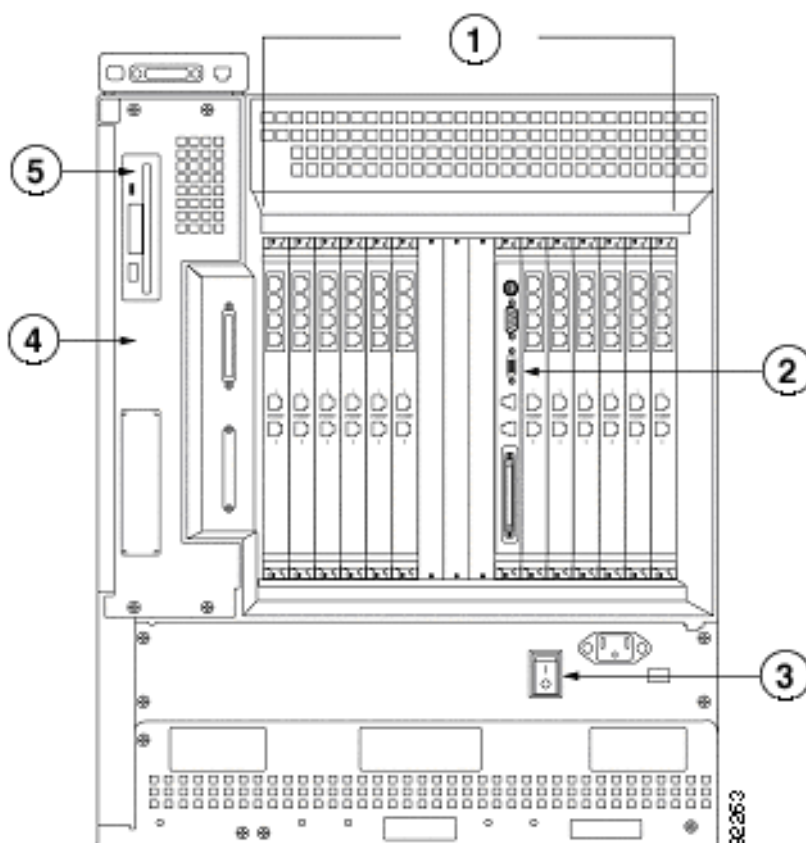
注意

Cisco MeetingPlace 8112 サーバは、必ず、Cisco NCE の指示に従って起動してください（『[Guide to Cisco Conferencing Documentation and Support](#)』の「Obtaining Technical Assistance」を参照）。

ステップ 1 Cisco MeetingPlace 8112 シャーシの背面にあるサーバの電源スイッチを ON、1 の位置に移動します。

ステップ 2 サーバが起動するまで 10 分程度待ちます。

図 5-5 Cisco MeetingPlace 8112 サーバの背面



1	ブレードスロット (1 ~ 6、11 ~ 16)	4	フロッピーハウジング
2	CPU カードトランザクションモジュール	5	フロッピードライブ
3	電源スイッチ		

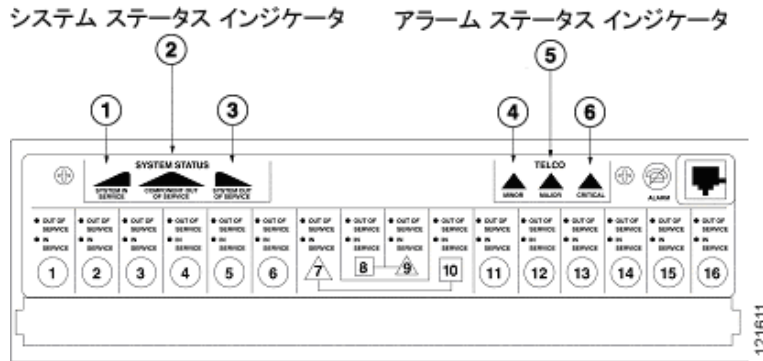
システムは停電の後にアラームを生成します。システムが正常に動作していたら、アラームをクリアします。停電の後、システムが回復しない場合、または異常な動作をした場合は、『[Guide to Cisco Conferencing Documentation and Support](#)』の「Obtaining Technical Assistance」を参照してください。Cisco MeetingPlace 8112 または Cisco MCS をレポートしないでください。

Cisco MeetingPlace 8112 起動経過表示の監視

システムを起動した後、Cisco MeetingPlace 8112 の経過表示を監視するには、前面パネルの上部のライトを見ます。図 5-6 で、サーバのライトについて説明します。

各ライトの詳細な説明については、P.6-6 の「Cisco MeetingPlace 8112 サーバのアラーム ライトの解釈」を参照してください。

図 5-6 Cisco MeetingPlace 8112 のアウト オブ サービス / 稼働中の LED



1	コンポーネントのアウト オブ サービス インジケータ	4	マイナー アラーム
2	システムの稼働中インジケータ (システムが完全に動作しているときに点灯)	5	メジャー アラーム
3	システムのアウト オブ サービス インジケータ	6	クリティカルアラーム

Cisco MeetingPlace サーバの保守について

Cisco MeetingPlace 8106 または Cisco MeetingPlace 8112 は、ハードウェアの保守をほとんど必要としません。ただし、Cisco MeetingPlace 8112 では、ファンのフィルタ スクリーンを 1 年に 1 回交換する必要があります。

この保守は、Full Care Support パッケージに含まれています。全体的なハードウェアの保守の詳細については、『[Guide to Cisco Conferencing Documentation and Support](#)』の「Obtaining Technical Assistance」を参照してください。

ユーザ データベースの保守について

ユーザが組織から離れるときには、そのユーザの Cisco MeetingPlace へのアクセス権を無効にするか、そのユーザをユーザ データベースから削除します。

- ユーザを無効にするときは、アクセス権を無効にして、そのユーザに関するデータベース内の履歴情報は維持します。
- ユーザを削除するときは、アクセス権を無効にして、そのユーザのプロファイル レコードを Cisco MeetingPlace データベースから削除します。

ユーザをすぐに無効にします（後で削除できます）。レポートを実行すると、無効にしたユーザがスケジュールした会議に関する情報を取得できます。他の Cisco MeetingPlace 会議がそのユーザを参照しなくなった後、そのユーザをデータベースから削除します。

ユーザ データベースを保守する方法には、次の 2 つの方式があります。

- **Cisco MeetingPlace Directory Services を使用する**：Cisco MeetingPlace Directory Services をインストールすると、ユーザ データベースが自動的に保守されます。プロファイル情報に関する企業のディレクトリを使用して、Cisco MeetingPlace Directory Services はプロファイル管理を大幅に単純化し、より正確なプロファイル レコードが Cisco MeetingPlace サーバに格納されるように保証します。また、企業のディレクトリからユーザが削除されたときにプロファイルを削除することによって、セキュリティ レベルを追加します。適切なプロファイル管理によって、以前の従業員は Cisco MeetingPlace システムにアクセスできなくなります（詳細については、『[Administrator's Guide for Cisco MeetingPlace Directory Services](#)』を参照してください）。
- **手動でデータベースを保守する**：Cisco MeetingPlace Directory Services をインストールしない場合は、システム管理者がシステムを保守する必要があります。以降の項で、ユーザ データベースを手動で保守する方法を説明します。

単一ユーザ プロファイルまたはグループの無効化

ステップ 1 MeetingTime で、**Configure** タブを選択します。

ステップ 2 無効にするユーザ プロファイルまたはグループを表示します（表示の詳細については、[P.2-22](#) の「[ユーザ グループおよびユーザ プロファイルのレコードの表示](#)」を参照してください）。

- プロファイルの User Active? フィールドで、**No** を選択します。
- グループの Group Active? フィールドで、**No** を選択します。

ステップ 3 **Save Changes** をクリックします。

これによって、User Active? フィールドが *Group dflt* に設定されているグループのすべてのユーザのすべてのユーザ プロファイルが無効になります。

複数プロファイルの無効化

複数のユーザを無効にする場合は、インポート プロセスを使用して、対象となるすべてのユーザを無効にできます。

ステップ 1 次の 3 つのフィールドを持つインポート ファイルを作成します。

- uid (ユーザ ID)
- prfnum (プロファイル番号)
- uactive (ユーザ アクティブ)

ステップ 2 これらのフィールドの下に、無効にする各プロファイルのユーザ ID とプロファイル番号、および no をコンマ (,) で区切って入力します。

```
uid,prfnum,uactive
ABell,1234,no
JSmith,5678,no
```

ステップ 3 MeetingTime で、**System** タブを選択します。

ステップ 4 **Import User Profiles** アクションをクリックします。

ステップ 5 Action to Perform 属性に対して、**Add profiles to system** を選択します。

ステップ 6 Data File to Use 属性に対して、インポートするファイルの場所と名前をテキスト ボックスに入力します。次に **OK** をクリックします。

または、**Browse** をクリックしてファイルの場所を特定することもできます。インポートするファイルを検索する際、Cisco MeetingPlace はファイル タイプを Import Files (*.imp) に指定します。インポート ファイルの拡張子が異なる場合は、List of File Type で **.csv** または **All Files** を選択します。

ステップ 7 Overwrite Duplicate Information 属性を **Yes** に設定します。

ステップ 8 エラーしきい値を設定します。

この値は、MeetingTime がインポート プロセスを中止するまでに許可するエラーの数を指定するものです。この数はあまり大きく設定しないでください。数件のエラーでも、インポート ファイルに問題があることは十分にわかります。

インポート中に何らかのエラーが発生した場合は、ステータス ダイアログボックスにその情報が表示されます。

ステップ 9 **Execute** をクリックします。

インポートによるグループの無効化

複数のグループを無効にする場合は、そのグループをインポートして無効にできます。

ステップ 1 次の 2 つのフィールドを持つインポート ファイルを作成します。

- Grpnm (グループ名)
- IsActive (グループ アクティブ)

ステップ 2 これら 2 つのフィールドの下に、無効にする各グループのグループ名、および no をコンマ (,) で区切って入力します。

```
Grpnm, IsActive
Corporate, no
Sales, no
```

ステップ 3 MeetingTime の System タブで、次の属性を設定します。

- **Import Group Profiles** アクションをクリックします。
- Action to Perform 属性に対して、**Add groups to system** を選択します。
- Data File to Use 属性に対して、インポートするファイルの場所と名前をテキスト ボックスに入力します。次に **OK** をクリックします。

または、**Browse** をクリックしてファイルの場所を特定することもできます。インポートするファイルを検索する際、Cisco MeetingPlace はファイル タイプを Import Files (*.imp) に指定します。インポート ファイルの拡張子が異なる場合は、List of File Type で **.csv** または **All Files** を選択します。

- Overwrite Duplicate Information 属性を **Yes** に設定します。
- Error Threshold 属性に対して、MeetingTime がインポート プロセスを中止するまでに許可するエラーの数を入力します。

この数はあまり大きく設定しないでください。多くのエラーが発生しない限り、インポート ファイルに問題があることがわからなくなります (インポート プロセスで何らかのエラーが発生した場合は、ステータス ダイアログボックスにその情報が表示されます)。

ステップ 4 **Execute** をクリックします。

単一グループまたはプロファイルの削除

システム管理者は、ヘルプ デスクの担当者または出席者によるユーザ プロファイルの削除を許可できます。詳細については、[P.1-16 の「Help Desk Privileges for Attendants について」](#)を参照してください。

ステップ 1 MeetingTime で、**Configure** タブを選択します。

ステップ 2 削除するレコードを検索します。

レコード検索の詳細については、[P.2-25 の「ユーザ、グループ、およびチームの検索について」](#)を参照してください。

ステップ 3 **Delete** ボタンをクリックし、**Yes** をクリックして削除を確認します。

インポートによる複数プロファイルの削除

ステップ 1 次の 2 つのフィールドを持つインポート ファイルを作成します。

- uid (ユーザ ID)
- prfnum (プロファイル番号)

ステップ 2 これら 2 つのフィールドの下に、削除する各プロファイルのユーザ ID とプロファイル番号をコンマ (,) で区切って入力します。

```
Uid,prfnum  
ABell,1234  
JSmith,5678
```

ステップ 3 MeetingTime の System タブで、次の属性を設定します。

- **Import User Profiles** アクションをクリックします。
- Action to Perform 属性に対して、**Delete profiles from system** を選択します。
- Data File to Use 属性に対して、インポートするファイルの場所と名前を入力します (または、**Browse** をクリックしてファイルの場所を特定します)。次に **OK** をクリックします。
- Send Log Info To 属性を使用して、エラー情報の格納先を設定します。
多数のレコードをインポートしている場合は、エラー情報をファイルに保存します。Log file Name 属性を使用して、このエラー ファイルの名前を指定します。
- Error Threshold 属性に対して、MeetingTime がインポート プロセスを中止するまでに許可するエラーの数を入力し、**OK** をクリックします。
この数はあまり大きく設定しないでください。数件のエラーでも、インポート ファイルに問題があることは十分にわかります。

ステップ 4 **Execute** をクリックします。

インポートによるグループの削除

グループ プロファイルをバッチで削除するには、次の手順に従います。

ステップ 1 2 つのフィールド grpnum (グループ番号) および Grpnm (グループ名) を持つインポート ファイルを作成し、削除するグループをリストします。

```
Grpnum,Grpnm  
1837,Corporate  
6272,Sales
```

ステップ 2 MeetingTime の System タブで、次の属性を設定します。

- **Import User Profiles** アクションを選択します。
- Action to Perform 属性に対して、**Delete groups from system** を選択します。
- Data File to Use 属性に対して、インポートするファイルの場所と名前を入力します（または、**Browse** をクリックしてファイルの場所を特定します）。次に **OK** をクリックします。
- Send Log Info To 属性に対して、エラー情報の格納先を設定します。
多数のレコードをインポートしている場合は、エラー情報をファイルに保存します。Log File Name 属性を使用して、このエラー ファイルの名前を指定します。
- Error Threshold 属性に対して、MeetingTime がインポート プロセスを中止するまでに許可するエラーの数を入力し、**OK** をクリックします。
この数はあまり大きく設定しないでください。数件のエラーでも、インポート ファイルに問題があることは十分にわかります。

ステップ 3 **Execute** をクリックします。

手動でのユーザ グループ情報の変更

ユーザ グループの共通の属性を変更できます。たとえば、ユーザ グループの連絡先が変更された場合、複数のユーザ プロファイルを変更する代わりに、グループ情報を変更することができます。

ステップ 1 MeetingTime の Configure タブで、**User Groups** ビューを選択します。

ステップ 2 **Find Records** ボタン（虫めがね）をクリックします。

ステップ 3 属性を変更するグループを選択し、**OK** をクリックします。

グループ検索の詳細については、[P.2-25](#) の「[ユーザ、グループ、およびチームの検索について](#)」を参照してください。

ステップ 4 グループの属性を変更し、**Save Changes** をクリックします。

手動でのユーザ プロファイル情報の変更

ステップ 1 MeetingTime の Configure タブで、**User Profiles** ビューを選択します。

ステップ 2 **Find Records** ボタン（虫めがね）をクリックします。

ステップ 3 ユーザ ID、プロファイル番号、または姓でユーザを検索し、**OK** をクリックします。

ユーザ検索の詳細については、[P.2-25](#) の「[ユーザ、グループ、およびチームの検索について](#)」を参照してください。

ステップ 4 属性を変更し、**Save Changes** をクリックします。

手動でのエクスポートとインポートによるユーザ プロファイルの変更

Raw Profile Information レポートをスプレッドシートまたはデータベースにエクスポートして、複数のユーザ プロファイルの属性を変更できます。

ステップ 1 ターゲットのスプレッドシートまたはデータベースで、そのアプリケーションで利用できるコマンドと機能を使用して、必要な変更を行います。

ステップ 2 ファイルをコンマ区切り (.csv) ファイルとして保存します。

ステップ 3 Overwrite Duplicate 属性を **Yes** に設定して、このファイルを Cisco MeetingPlace にインポートします。

ファイルのインポートの詳細については、[P.2-16](#) の「ユーザ プロファイルとグループ情報のインポート」を参照してください。

暗号化されたパスワードのインポートとエクスポート

Raw Profile Information レポートを実行することによって、ユーザの暗号化されたパスワードを含むプロファイルのエクスポートできます。このプロファイルを別の Cisco MeetingPlace 会議サーバにインポートして、データベースを複製できます。

たとえば、複数のスタンドアロンの会議サーバがある場合に、ある会議サーバからプロファイルのエクスポートし、別のサーバにインポートすると、すべてのパスワードが保存されます。

設定レコードの保守

インストールが完了したら、Cisco MeetingPlace の初期設定の完全なドキュメントとして、『[Installation Planning Guide for Cisco MeetingPlace Release 5.3](#)』のワークシートを使用します。システムの設定を変更する場合は、この変更を反映する新しいドキュメントを作成する必要があります。

保守するレコードと保守の方法	MeetingTime での操作
システム設定レコード。システムの設定値をリストする電子ファイルを作成します。	Configure タブで任意のトピックを選択し、 Write to File ボタンをクリックします。 Cisco MeetingPlace は、そのトピックに関するシステムの設定の電子ファイルを作成します。
会議レコード。指定された期間、スケジュールされた会議のリストを維持、または会議詳細のレコードを作成します。これらのレコードをファイルに保存したり、印刷したりできます。	Schedule タブで、 Print/Save ボタンをクリックします。次に、ドロップダウンメニューからアクションを選択します。

Cisco MeetingPlace ライセンス キーのロードについて

Cisco MeetingPlace システムに対して、適用可能な Cisco MeetingPlace 機能ライセンス キーを一度に、または個別に追加またはアップグレードできます。ライセンス キーの追加またはアップグレードは、MeetingTime から行います。

追加またはアップグレードできるライセンス キーのファイルは、新しい Cisco MeetingPlace システムを購入したとき、または Release 5.3 にアップグレードしたときに、利用可能になります。これらのファイルは、Cisco MeetingPlace 8106 または Cisco MeetingPlace 8112 を購入したときにロードされます。

新しいライセンス キーを購入した場合は、電子メールの添付ファイルとしてシスコから送信されます。添付ファイルをローカル コンピュータのドライブに保存します。このファイルを、MeetingTime から簡単に参照できる場所に置きます。

すべてのライセンス キーのロード

- ステップ 1 MeetingTime の System タブで、**Import System Options** アクションを選択します。
- ステップ 2 Action to Perform 属性で、**Values** 領域をクリックします。**Import system options to system** を選択し、**OK** をクリックします。
- ステップ 3 Import File Name 属性で、Values 領域をクリックします。
- ステップ 4 ライセンス キー ファイルのファイル名を入力するには、デフォルトのファイル名を使用するか、別のファイル名を入力し、**OK** をクリックします（必要に応じて **Browse** キーを使用します）。
- ステップ 5 **Execute** をクリックします。

ライセンスが Cisco MeetingPlace 8106 または Cisco MeetingPlace 8112 サーバにエクスポートされ、追加またはアップデートされます。

- ステップ 6** Cisco MeetingPlace 8106 サーバまたは Cisco MeetingPlace 8112 サーバを再起動します。
- ステップ 7** ライセンスがロードされたことを確認するには、License Information レポートを MeetingTime で実行します (P.4-7 の「[License Information レポート](#)」を参照してください)。

ライセンスの数量およびライセンス キーと、MeetingTime に入力した情報とを比較します。不一致がある場合、不足しているライセンスをロードし直します。ヘルプについては、『[Guide to Cisco Conferencing Documentation and Support](#)』の「Obtaining Technical Assistance」を参照してください。

個別のライセンス キーのロード

- ステップ 1** ライセンスに関するドキュメントに記載されているオプション キーを確認します。
- ステップ 2** MeetingTime の Configure タブで、**System Options** ビューを選択します。
- ステップ 3** **Query** をクリックしてから、<または> ボタンをクリックして、追加またはアップグレードするライセンス キーを探します。
- ステップ 4** Number of Licenses 属性で、Values 領域をクリックします。Cisco MeetingPlace システムのライセンス数を入力し、**OK** をクリックします。
- ライセンス数は、対応する Cisco MeetingPlace オプション キーの数と一致している必要があります。
- ステップ 5** Option Key 属性に、オプション キー番号を入力します。
- ステップ 6** **Save Changes** をクリックします。
- ステップ 7** 追加のライセンスをロードするには、ステップ 3 ~ 6 を繰り返します。
- ステップ 8** Cisco MeetingPlace 8106 サーバまたは Cisco MeetingPlace 8112 サーバを再起動します。
- ステップ 9** ライセンスがロードされたことを確認するには、License Information レポートを MeetingTime で実行します (P.4-7 の「[License Information レポート](#)」を参照してください)。

ライセンスの数量およびライセンス キーと、MeetingTime に入力した情報とを比較します。不一致がある場合、不足しているライセンスをロードし直します。ヘルプについては、『[Guide to Cisco Conferencing Documentation and Support](#)』の「Obtaining Technical Assistance」を参照してください。

